

バイオマス燃料貯蔵ヤード発熱監視

- 広域監視エリアを面分布で測定
- 発火前の温度上昇を素早く検知

バイオマスの貯蔵設備では、蓄熱による自然発火事故を起こすことがあるため貯蔵ヤードの全体を常時監視する必要があります。一般の監視カメラでは、発火しても映像としての視認性が低いいため火災事故を未然に防ぐことができないため、熱画像装置による連続発熱監視で貯蔵ヤードの表面温度分布の変化をとらえ、発熱段階で検知し温度警報出力を行います。

導入効果

- 面監視で発火直前の温度上昇を素早く検知できる為、発火事故を未然に防げる。
- 温度上昇警報を外部警報機器へ出力することで、目と耳で警報確認が可能。

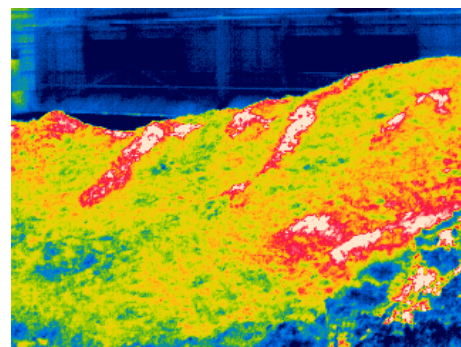
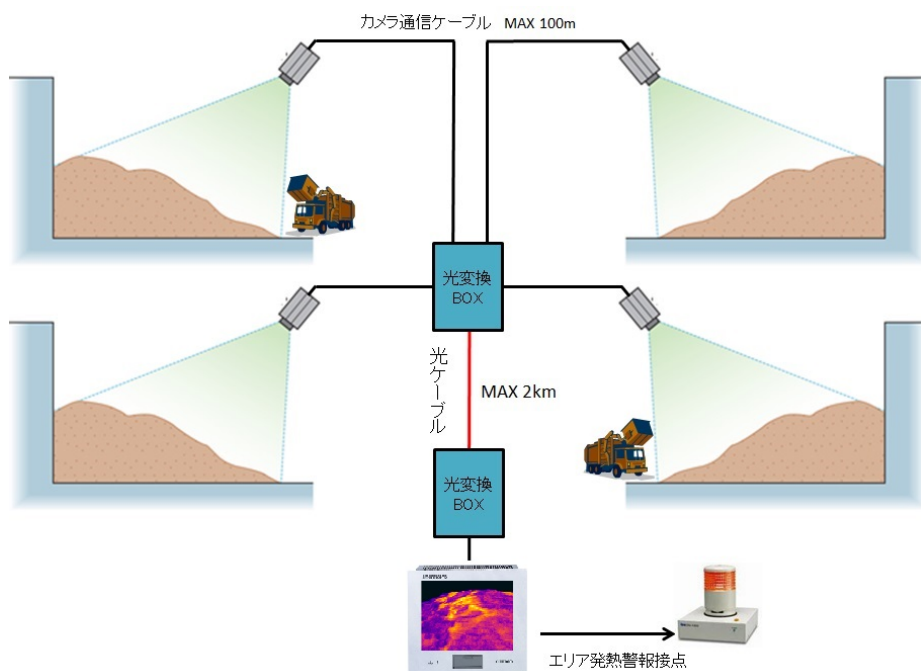
商品の特長

- コントローラ1台でカメラ4台までサポート
- カメラ～コントローラ間は光通信で最大2kmまで延長可能
- アナログ出力／画像処理機能をコントローラに標準搭載
- 太陽光の影響を受けにくい波長を使用。屋外ヤード監視にも対応



推奨機器：CPA-A35W

アプリケーション例



CHINO